

巻 頭 言

愛知県技術士会員間で常時情報コミュニケーション

幹事 伊藤 肇

家庭のエアコン、風呂沸かし、ビデオ録画もインターネットや携帯電話から操作する時代になってきました。ユビキタス（日常，どこにいてもコンピュータが使えるという環境）時代が現実になんげ近づきつつあります。

国際航空ターミナル、新幹線駅、万博会場駅等の重要スポットにはホットスポットと呼ばれる無線 LAN サービスがすでに開始されています。

さらに、今年 12 月からは航空機の国際便の一部でノートパソコンを持ち込めば無線 LAN による常時接続が可能となるサービスも始まりました。

総務省は、いつでもどこでもネットワークに接続できる「ユビキタス社会」が進み、2010 年には 87 兆円市場になるなどとした 2004 年版の「情報通信白書」を発表しました。

白書では、日本の通信ネットワークの現状として、パソコンだけではなく携帯電話など端末からネット接続する傾向も増し、ブロードバンド（高速大容量）通信が着実に普及。世界で最も低料金で高速であると指摘しています。

ADSL（非対称デジタル加入者線）や光ファイバーなどを合わせた契約数は 03 年度末で 1500 万件に迫っており、米国、韓国に次いで世界三位に位置付けられたことを示しています。携帯電話の契約数も 8000 万件を突破し、携帯のインターネット対応率は 89.5% と世界トップ水準となりました。

ところで、今話題になっている IP 電話。パソコンのスピーカーとマイクで電話のように話をしてしまおうというソフトをご存知でしょうか？

有料以外に Yahoo! や AOL、MSN のインスタントメッセージ等、無料で添付されているものもありますが、ADSL ルータを通して使うのが難しかったり、音質が悪かったりと、使っている人は少数です。

ところが「Skype：GANET メーリングリストで紹介済みのもの」は、P2P ネットワークの技術を使っているので、そういったネットワーク設定上の問題はないに等しく、音質は携帯電話以上、5 人までの電話会議も行えしかも基本料金は全く無料というものです。さらにパソコン同士だけでなく、国内国際電話にも格安で対応。通話が暗号化されるなど実用性にとんだ内容です。

まもなく一般電話への通話サービスに Livedoor も参画し、日本でも開始される予定です。今年 は Skype がコミュニケーションを変えるかも知れません。

[愛知県技術士会会報の情報連絡先]

代表幹事 柴田素伸 〒492-8485 稲沢市中之庄町行燈18-86
TEL・FAX 0587-32-4758 Email: shibata-m@mvc.biglobe.ne.jp

インターネットが、定額つなぎ放題になってはじめて社会的なインパクトがでてきたように、通話という最もポピュラーなコミュニケーション・サービスも、世界中で定額・つなぎ放題になったら、また新しい社会的な変革がうまれそうです。

中部支部事務所も昨年、事務パソコンを最新機種に加えて無線ルータ LAN 化し、インターネット共有の ADSL 環境を整えました。最近 E メール返信が早くなったのに気づかれた方も多いのでは？さらに技術士活動が活性化するには、身近な話題をホームページ掲示板やメーリングリストで意見交換することも必要ではないでしょうか？

さらに、IP 電話（内線電話と同等に使える）を有効に使うことにより中部支部事務所（愛知県技術士会）を中心として会員相互が結束できます。生きた情報を常に交換・話し合いすることにより技術士会がより発展・変革・魅力的になるのではないのでしょうか。

近いうちに、海外出張中の飛行機の中から、新幹線からもパソコンによる IP 電話・チャットで情報交換できるようになるのを楽しみにしています。

以上

お知らせコーナー

シンポジウムのご案内

ロシアによる批准と京都議定書の発効（2月16日）を迎え、企業や技術者の活動に影響を与える環境問題をめぐる主要な課題の現状と最新動向について、7年間の活動実績を持つ愛知県技術士会 ISO14001WG のメンバーが報告します。

1. 日時・場所・定員

日時 平成 17 年 2 月 18 日(金) 13:10 から 18:00 まで

場所 東別院会議室 萩の間（懇親会は別会場） 定員 40 名 先着順

2. シンポジウム概要

次ページにプログラムを示します。

3. 参加費用

- ・シンポジウム参加費として 資料代 2000 円/人(当日徴収)
- ・懇親会参加費として 4000 円/人 (当日別途徴収) 但し場所は当日案内

4. 参加申し込み

- ・メール又は FAX で、1 月末までに下記 愛知県技術士会まで申し込み下さい。

〒450-0002 名古屋市中村区名駅 5-4-14 花車ビル北館 6 階

(社)日本技術士会 中部支部内 愛知県技術士会 事務局 宛

TEL052-571-7801 FAX052-533-1305

Email: g-chubu@asahi-net.email.ne.jp

[愛知県技術士会会報の情報連絡先]

代表幹事 柴田素伸 〒492-8485 稲沢市中之庄町行燈18-86
TEL・FAX 0587-32-4758 Email: shibata-m@mvc.biglobe.ne.jp

(社)日本技術士会 中部支部 愛知県技術士会発行
愛知県技術士会会報

NGAH 62
2004.12.1

発行人 柴田素伸
編集人 間瀬雅彦
西脇正倫

シンポジウム概要(プログラム)

区分	テーマ	内容	発表者
13:10~13:35	京都議定書の発効と企業と技術者の対応	環境問題の全般動向と技術士会の活動	柴田代表幹事
13:35~14:00	環境経営からCSR	環境経営と環境会計の現状と動向	中川邦好
14:00~14:25	環境報告書の現状と動向	報告内容と情報公開	杉本漢三
14:25~14:50	多様化する環境マネジメントシステム	エコアクション21などエコ事業所認定制度の最近の動き	花井建夫
14:50~15:15	排出権取引と環境パフォーマンス評価	環境パフォーマンス評価の現状と問題点・動向	内田正雄
15:15~15:25	休憩		
15:25~15:50	LCAはどう発展するか	LCA最新情報動向環境ラベルをめぐって	高木三則
15:50~16:15	ISO14001の改訂と対応	ISO14001の改訂概要と企業の対応上のポイント	前田武光
16:15~16:40	ISO14001の審査と動向	ISO19001と複合審査規格改訂と審査	内田貞武
16:40~17:15	ビルの環境格付けとコミッショニング	第三者による性能検証制度の背景と動向	松田則雄
17:15~18:00	質疑応答	シンポジウムの内容についての総括討議	司会 太田繁夫
18:00~18:30	片付けと移動		
18:30~20:30	懇親会		

注:講演20分質疑応答5分、レジュメ4頁/人、パワーポイント(自由)

2月18日環境シンポジウム参加申し込み書

参加区分 シンポジウム 懇親会 (参加の場合で° 囲んで下さい)

住所 _____
氏名 _____ 所属 _____
電話番号 _____

[愛知県技術士会会報の情報連絡先]

代表幹事 柴田素伸 〒492-8485 稲沢市中之庄町行燈18-86
TEL・FAX 0587-32-4758 E-mail:shibata-m@mvc.biglobe.ne.jp

協賛行事案内 (CPD対象) のご案内

シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第23回「“からくり”からロボットへ」

中部地方は、からくり人形や実用的な和時計の製作など、古くからものづくりの技術が発達していました。様々な技術、特に木材加工、鍛造、鋳造などの技術が多業種にわたり融合して大きく発達したといえます。

『からくり』には先達の知恵と技術がぎっしり詰まっています。中部地方にはこれらが多く保存されており、さらに「からくり」を集めたトヨタコレクションも名古屋に保存されます。このように「からくり」から数多く学び、それを受け継ぐことができる環境にあるのです。このシンポジウムは、江戸時代の「からくり」が近・現代の機械技術、とりわけ『ロボット技術』へ至る技術伝承について、その解明への糸口を探りたいと考えています。

開催日：2005年(平成17)2月26日(土) 13:00～17:00

場 所：産業技術記念館(名鉄本線「栄生駅」下車徒歩5分)

主 催：中部産業遺産研究会

後 援：(社)日本機械学会、(社)日本技術士会中部支部、(財)2005年日本国際博覧会協会、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、その他依頼中。

講 演： 「江戸の技術・からくりとトヨタコレクション」

鈴木一義氏(独立行政法人 国立科学博物館主任研究員)

「ロボットの進化 今日段階とこれから」

末松良一氏(名古屋大学大学院 工学研究科教授)

パネルディスカッション：

テーマ：「からくりからロボットへ」(仮題)

パネリスト：鈴木一義氏、末松良一氏

久野敏孝氏(豊田中央研究所・元システム1部部长)

千田靖子氏(からくり人形研究家)

コーディネータ：中部産業遺産研究会会員(未定)

懇親会：同館内レストラン「ブリックエイジ」で17:30～19:00

参加費：シンポジウム 1,500円(資料代、館内見学代[午前中から]を含む)

懇親会 5,000円

申し込み：2月14日までに下記に

〒477-0034 東海市養父町大木之本43-1 永井唐九郎まで

FAX.0562-33-7154

E-mail:qqs7ku9k@soleil.ocn.ne.jp

担当幹事：杉本漢三(機械部門)

[愛知県技術士会会報の情報連絡先]

代表幹事 柴田素伸 〒492-8485 稲沢市中之庄町行燈18-86
TEL・FAX 0587-32-4758 E-mail:shibata-m@mvc.biglobe.ne.jp

「広場・湖海の土」No. 26

健康食品について思うこと

跡部昌彦 (農業部門、総合技術監理部門)

私の専門分野である食品の話をしたと思う。

サプリメント(栄養補助食品)を中心に、健康食品が大ブームである。健康食品なら高く売れるということで、食品会社や医薬品会社、化粧品会社などが、この市場に群がっている。健康食品という定義が曖昧であるが、属に1兆円市場と言われている。日本人の人口をざっくりと1億人とすると、日本人1人あたりで年間1万円を健康食品に費やしていることになる。その健康食品を摂取して科学的な効果がなかったとしても、気分的に良さそうというならまだ良いが、健康を害する事例も多く報道されており、摂取するなら、きちんとした知識をもってもらいたいと思っている。

そもそも、自分にとって、推奨される健康・栄養成分の摂取量と、自分の食生活を見比べ、どんな成分が不足しているかがわかっている人がいるのだろうか? 医者なら、その人の健康状態を観察し、栄養士なら、その人の食生活を観察することで、だいたいはわかるかもしれないが、ふつうの人では無理である。そういう指導を受けず、適切な知識を持たないで、皆が健康食品に頼っている昨今を私は憂えている。

健康食品というのは、一般的に、ビタミンやミネラル類などの強化のほか、食品中からある健康成分を濃縮したり、抽出したりして、その成分濃度を高めて、タブレットにしたり、飲料水や調味料などの食品に配合したものである。これが危なく、体に悪影響を及ぼす成分までもが濃縮または抽出されている可能性があるのである。そして、そういう健康食品に頼りはじめると、ふだんの食生活が疎かになる傾向にある。食品というのは、含まれている様々な成分(科学的に未解明な成分も多い)の複合化の中で、おいしさや栄養・健康を成り立たせているのであり、そこからの特定成分の摂取だけでよいはずがない。

そんな訳で、私は、会社での仕事として、日本食のよさを科学し、見直そうとしている。日本人が、ここまで健康で長生きできるようになった理由のひとつに日本型食生活がある。日本型食生活とは、日本古来の主食である米を中心とし、畜産物や果実などがバランスよく加わった食事である。しかし、最近では米の摂取量の減少や脂質の増加などで、欧米型食生活に移行し、その結果として肥満や糖尿病などの生活習慣病が増えているのはご存知のことと思う。私たち日本人は、古来より米をはじめとする穀類を消化吸収して生きていくような体に作られてきているので、それを急に変えたら、体がついてこない。(今の若い世代は、80~90歳も生きられないと思う)

[愛知県技術士会会報の情報連絡先]

代表幹事 柴田素伸 〒492-8485 稲沢市中之庄町行燈18-86
TEL・FAX 0587-32-4758 E-mail: shibata-m@mvc.biglobe.ne.jp

私が、最も興味を持っているのは、日本食の食べ合わせである。一例を紹介しよう。米と大豆を同時に摂取すると、活性酸素（酸化力がきわめて強く、細胞を酸化させ、老化や生活習慣病などの原因になると言われている酸素）を消去する効果が、それぞれの単独摂取よりも相乗的に強くなるというものである。即ち、ご飯（米）とみそ汁（大豆）というあたり前の食べ合わせが、科学的にも理にかなっているということである。他にも、米と緑茶の組み合わせがよいこともわかっている。（秋田県総合食品研究所の秋山美展先生の研究より）

私としては、会社で、このあたりの研究を進め、日本食がもっている健康性を科学し、それを引き出した食品の開発を進めたいと思っている。

（次回は中西利美先生にリレーします。）

愛知県技術士会会員の移動

新入会 なし

退会 （1名） 山田郁男 （上下水道部門）

編集後記

台風に集中豪雨そして土砂災害など、次から次へと災害が発生しております。世界的に観てもわが国は自然災害の多いところではありますが、それにしても今年の災害数は異常です。特に10月23日17時56分に新潟県中越地方で発生した地震は、発生規模、被害の大きさにおいても1995年に発生した阪神大震災に匹敵する災害となっております。被災地の方々は今なお不自由な環境にあります。一日も早く普及されることを願っております。

この震災に関して技術士会（東京本部：防災特別委員会）としても義援金を募集することとなりました。詳しくは12月の月刊技術士会報に掲載されます。皆様のお手元に届きましたらご賛同頂きますようお願いをいたします。

さて、早いもので今年もあと残すところ僅かとなりました。中東に於ける戦災、世界各地で繰り返されるテロ行為、自然災害など、暗い話題ばかりが目立った1年でしたが、来年こそ良い年となって欲しいものです。

少々早いですが皆様、良いお年をお迎えくださいませ。（会報編集担当：間瀬雅彦）